

マイボーム腺機能不全 A to Z ー明日から使える基本から
最先端までー

Meibomian gland dysfunction A to Z

有田 玲子 ¹⁾²⁾、福岡 詩麻 ²⁾³⁾、川島 素子 ²⁾⁴⁾、白川 理香 ²⁾³⁾、高 静花 ²⁾⁵⁾、溝口 尚則 ²⁾⁶⁾

Reiko Arita¹⁾²⁾

伊藤医院 ¹⁾、LIME 研究会 ²⁾、東京大 ³⁾、慶應大 ⁴⁾、大阪大 ⁵⁾、溝口眼科 ⁶⁾

Itoh Clinic¹⁾、Lid and meibomian gland working group²⁾、Tokyo Univ.³⁾、Keio Univ.⁴⁾、Osaka Univ.⁵⁾、Mizoguchi Eye Clinic⁶⁾

（必要性、意義）眼科一般外来において眼不定愁訴を強く訴えるマイボーム腺機能不全（MGD）は眼科医が最も遭遇する頻度の高い疾患である。しかし、失明に至らないことや症状と所見が乖離することから見過ごされやすい疾患だった。ドライアイの主因として MGD が国際的に注目され、2011 年にワークショップが開催されて以降、急速に新規の診断・治療法が開発された。今回のコースでは、MGD を客観的に再現性高く診断する方法、MGD のホームケアから世界最先端の治療まで本邦での使用経験を交え、多くの写真や動画を用い、受講者に、”MGD の診断と治療の基本から最先端まで ”についてお話させていただく予定である。具体的には、診断では スリットランプ所見 マイボグラフィ インターフェロメトリー、治療では 温罨法・眼瞼清拭 マイボーム腺脂圧出 点眼・内服・サプリメント 医療機器を用いた治療について根拠となるようなエビデンスと施行時のコツをご紹介します予定である。

- （分担）
 - Overview：MGD の診断・治療の変遷（担当:有田玲子 8 分＋質疑応答 2 分）
 - 診断基本（スリットランプ所見）（担当:有田玲子 5 分＋質疑応答 2 分）
 - 診断最先端（マイボグラフィとインターフェロメトリー）（担当:福岡詩麻 8 分＋質疑応答 3 分）
 - 治療基本（温罨法・眼瞼清拭）（担当:川島素子 8 分＋質疑応答 3 分）
 - マイボーム腺脂圧出（担当:白川理香 8 分＋質疑応答 3 分）
 - 点眼・内服・食事・サプリメント（担当:高静花 10 分＋質疑応答 3 分）
 - 医療機器を用いた最先端の治療法（担当:溝口尚則 9 分＋質疑応答 3 分）
 - まとめと全体質疑応答（15 分）

（得られる結果、達成目標）
MGD は一般臨床において最も遭遇する頻度の高い疾患のひとつである。しかし、眼瞼炎やドライアイと症状だけでは鑑別できず、客観的で再現性の高い診断法がなかった。治療面でも特効薬がなく、患者さんの満足がなかなか得られない疾患だった。しかし、2011 年に国際ドライアイ研究会（TFOS）がワークショップを開催して以来、診断・治療法が飛躍的に進歩した。従来からその有用性が高く評価されていた温罨法や眼瞼清拭、外来で行うマイボーム腺脂圧出は数々のエビデンスが報告され、最初に行う標準治療としての地位を確立した。MGD のメカニズムから考えうる慢性の感染や炎症に対する抗炎症をねらった抗菌薬点眼や内服、サプリメントも具体的な治療ストラテジーが提唱され、本邦でも新しい点眼薬が発売された。最新の治療法として医療機器（Thermal pulsation system、Intense Pulsed Light）の安全性と有効性についても本邦での治療効果を紹介する。本 IC では MGD を的確に診断、適切に治療することを目的とし、具体的な症例を提示しながら、写真、ビデオ、文献を供覧して解説する。本インストラクションの達成目標は MGD 診療の基本から臨床まで（A to Z）ご理解いただき、明日からの臨床に早速実践できる内容をお届けすることである。

-
- 〔利益相反 公表基準：該当〕 有
 - 〔倫理審査：承認〕 有
 - 〔IC：取得〕 有